

2018年度 トマ ルルー氏 テューバ特別講義

1. 日 時 : 2018年11月20日(火)13時00分~16時00分
2. 場 所 : O号館 201教室
3. 対象学生【必修】 : 専門合奏(ユーフォ テューバ)履修者 学内のみ他聴講可
4. 講 師 紹 介 : トマ ルルー [Thomas Leleu]

裏面参照

5. 講 義 概 要 :

植村 紗也香 (学4)

Tuba Concerto / Martin Ellerby

伴奏者 三橋 祥子 (卒業生)

水井 裕貴 (学3)

Tuba Concerto / Philip Sparke

伴奏者 三橋 由瑚 (学2)

山田 悠貴 (学3)

Tuba Concerto 1.2mov / R.Vaughan Williams

伴奏者 南部 実子 (学2)

トマ・ルルー

Thomas Leleu

トマ・ルルーは、フランスで最も権威あるクラシック音楽賞、ヴィクトワール・ド・ラ・ムジーク・クラシックで最優秀器楽ソリスト賞に輝いた初のベース・テューバ奏者である。

彼は、若い頃から“ベース・テューバ界の世界的若手スター”（フランスのラジオ局 Europe 1）という高い評価を受けてきた。そのたぐいまれな才能は同業者からも一目置かれ、若くして既に見事な実績を築いている。彼の手にかかれば、ベース・テューバの豊かで繊細かつ複雑な魅力が花開き、音域はどこまでも広がり、新たな息吹やみずみずしい若さを描き出す。トマ・ルルーは真の天才であり、その驚くべき音楽性と軽快な指使いでベース・テューバが持つ従来のイメージを覆す。彼の願いは、クラシック音楽と現代音楽の間にある壁を取り払うこと。スタイルにとらわれない自由なアプローチでコンサートの演奏に臨む、ベース・テューバの完璧な伝道師だ。

1987年フランスのリールで生まれたトマ・ルルーは、父親からベース・テューバの演奏を学び、その後フランソワ・テュイリエとフィリップ・ルグリに師事した。17歳でパリ国立高等音楽院（CNSM）に入学し、公開コンペティションで優勝。ジェラルド・ビュッケとベルナルド・ノーランテールのテューバクラス、そしてジェンス・マクマナマの室内楽クラスで学んだ。3年間の養成コースを優秀な成績で卒業し、ベース・テューバの最優秀賞も獲得。2006年にはドイツのデトモルト音楽大学に交換留学し、ハンス・ニッケル（ケルンWDR交響楽団の首席ベース・テューバ奏者）に師事した。

トマ・ルルーは、マルクノイキルヒェン（ドイツ）、済州（韓国）、ルクセンブルクをはじめ、世界各地のコンクールで入賞している。19歳からマルセイユ歌劇場管弦楽団の首席ベース・テューバ奏者を務めており、2014年2月20日には弱冠24歳にして、フランスで最も権威あるクラシック音楽賞、ヴィクトワール・ド・ラ・ムジーク・クラシックの最優秀器楽ソリスト賞をベース・テューバ奏者として初めて獲得し、一躍脚光を浴びた。彼は数多くのオーケストラと共演し、ソリストとして、あるいは自ら率いるユニークで斬新なアンサンブル「トマ・ルルー六重奏団」（ベース・テューバと弦楽クインテット）として、フランス国内外のさまざまな音楽祭へ定期的に招待されている。トマは、ワールドミュージック、ジャズ、現代音楽にも情熱を傾け、2016／2017シーズンはテューバ・フレンチ・タッチ、マルセイユ市、マルセイユ・オペラ座との共同プロデュースで「ザ・テューバズ・トリップ」と題した公演を行っている。